

秋保

秋保には昭和の半ばまで秋保電鉄という電車が走っていました。覗橋たもとの「秋保温泉駅」は、温泉観光で賑わい、それぞれの旅館へ道案内する番頭さんが駅の出入口で並んで迎えに来ていたそうです。

今は便利な乗り物がいろいろありますが、全長16km、所要50分ほど、自然豊かな田園風景の中をゆっくりと走る小さな電車の様子を想像すると何か愛おしさを感じます。

このマップ片手に秋保電鉄の風景に触れてみませんか。

旧秋保電鉄沿線散歩 秋保温泉駅から茂庭駅

いってみっぺ
秋保

旧秋保電鉄沿線散歩
秋保温泉駅から茂庭駅

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

目をつむれば…
「ガタン、ゴトン、ガタン、ゴトン」
とゆっくりと電車が走る
野を越え、山を越え…
想像しながら徒歩で軌跡を辿る
小さな旅へ出発進行！

秋保電鉄は、大正3年長町まで秋保石を運ぶ馬車軌道として始まり、その後電化され、秋保温泉への湯治客などを乗せるようになりました。しかし道路交通の普及により昭和36年にその役目を終えました。
今は道路に変わったり、荒れて藪になってしまったりと当時のルートすべてを歩くことはできませんが、秋保温泉駅・茂庭駅間は、温泉観光や生活交通、そして石切り場から搬出される石材輸送など、当時の風景や思いが感じられる場所が随所にあります。
駅舎のあったところや軌道敷を歩きながら、秋保電鉄の面影を辿ってみましょう。

1 秋保温泉駅跡



観橋パークの東側にある旧仙台市電車両の展示付近が目印、北側に旧秋保電鉄の駅舎跡があり、ここから長町方面へ向けて出発したのです。逆に長町方面からは終点「秋保温泉駅」として賑わいました。さあ、ここから歩き旅、出発進行!

7 茂庭駅跡



水色の倉庫が建つ茂庭駅の駅舎跡地。現道が軌道敷で構内は車両交換のため複線となっていたそうです。茂庭の鎮守「生出森八幡神社」の例大祭の時には、多くの秋保電鉄利用者があり、増発便が出るほど賑わったといえます。



茂庭駅から秋保方面に向けて真っすぐな軌道敷跡を歩きます。



2 磊々峡駅跡



秋保電鉄を生むきっかけとなった「秋保石」の砕石場跡。この洞窟堂山は、その昔、慈覚大師円仁巡錫の地で、かつての電鉄線路沿いには塩滝不動尊が祀られています。県道の歩道沿いや新秋保橋からは優美な磊々峡の峡谷「不動測」が臨めます。磊々峡駅は、こけし塔付近にありました。

旧秋保電鉄沿線散歩 (秋保温泉駅から茂庭駅)



3 県道から熊沢林道へ入り、すぐ右の道へ



県道から熊沢林道に入り、名取川の河岸段丘に広がる畑地帯へ入ります。住宅の点在する中を進んで行くと、細い道が東へのびていて、軌道敷の面影を残す当時の風景があります。間もなく北赤石駅付近となり、住宅が密集する場所へと向かっていきます。

4 北赤石駅跡



駅前の佐藤さん宅では、お母さんがうどんやそばなどを出していたそうです。中でもよく売れたのが、かき氷とところどったと話してくれました。佐藤さんは、当時を思い出しながら、駅舎や電車、自宅の絵を描かれたそうで、気さくにに応じてくれました。(写真中央の男性:佐藤さん)

5 北赤石界限



北赤石界限は、奥州三箇森と称される「鹿ノ上森山、中ノ森山、亀ヶ森山」の麓、名取川と碓氷川が合流する河岸段丘にあります。古より仙台と山形を結ぶ二〇街道と笹谷街道の合流点で、街道交通の要所としての痕跡を残しています。

6 馬尾坂



電鉄の軌道は、馬尾坂のアップダウンを避け、北側の山裾を走っていました。そのルート選択に感心しながら、茂庭駅に向けて進みます。

散歩の目安

- 1 秋保温泉駅跡 ~ 4 北赤石駅跡
→ 約2.6km 徒歩 約40分
- 4 北赤石駅跡 ~ 7 茂庭駅跡
→ 約4.0km 徒歩 約60分

歩く前と歩いた後の足は、
便利な宮城交通バスがおススメ!
約1時間に一本程度、バスが通っていますよ!